

# NPO 法人 高齢社会をよくする女性の会 会報

No.182 2008年3月発行  
NPO法人高齢社会をよくする女性の会  
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-9-1  
第31宮庭マンション802号室  
TEL. 03-3356-3564  
FAX. 03-3355-6427  
郵便振替 00100-0-79477



理事長、両副理事長から花束贈呈

## 目次

2月例会 スウェーデンの高齢者福祉最新情報…… 1	シシリア・リンド
本の紹介…… 6	
男・老いを語る(48)樹下行三…… 7	
高連協・国際シンポジウム シニアと環境問題…… 8	
お悔やみ…… 9	
本の紹介・事務局だより…… 10	



シシリア・リンド市長と通訳のヨアキム カウト氏

◆二月例会◆  
二〇〇八年二月二一日(木)  
於・女性と仕事の未来館

## スウェーデンの高齢者福祉最新情報

講師 シシリア・リンド (スウェーデン・エスロブ市長)  
司会 袖井孝子 (本会副理事長)

2月例会は、来日中のスウェーデン・エスロブ市長のシシリア・リンド女史をお招きしてスウェーデンの高齢者福祉情報についてお話を伺った。講演に先立ち、樋口理事長より、エスロブ市はスウェーデンの南部に位置し、最も福祉が進んだ市として多くの視察団が訪れている市であるとの紹介があった。スウェーデン語の通訳を下さったのは、スウェーデン大使館内のスウェーデンクオリティケアのヨアキム カウト所長である。

### 市長の仕事は楽しい

スウェーデンには290人の市長がいるが、そのうちの62人は女性である。私は、もとナース、その後エスロブ市のケア部長職などを歴任したのち、女性の立場のことや移民の問題など、社会的な問題に取り組みたいと考え市長となった。スウェーデンでは、ほとんどの家庭が共働きであるが、女性は男性の給料の96%しかもらっていない。まだまだ男女平等になっていないので、平等な世界を

作るべきであると考えている。

## エスロプ市の高齢化の状況

エスロプという市は、東京と比べると小さい町であり、人口は3万1千人。スウェーデンの南部に位置し、デンマークにとっても近い。そして、新しい市民が増え、人口が増加している町である。

現在の65歳以上人口は約17%くらいだが、数年後には、65歳以上の方々が大きく増える。

ちょうど私達の世代だが、1940年代の第2次世界大戦後にスウェーデンでは大きなベビーブームがあった。そのため、2025年頃に、その人達が80歳以上になる。

ちょうどその頃、たくさんの子供達が学校とか保育園に入るようになる。スウェーデンでは、1歳の子供は、1週間の間に40時間の保育園とか幼稚園に入る権利がある。そのため、市の予算の多くを、学校と高齢者ケアに充てている。

現在、市の住民税は20%であるが、2025年頃には50%程度税金を取らない

とやっていけなくなると予想されている。スウェーデン人は辛抱強く税金を払っているが、限界があるので、今、私達は、予防に力を入れている。

## 予防重視

安全に年を取りながら、健康な状態を延ばすことが大切である。50歳から運動をしましょうということではなく、子供の頃から取り組むことが大切である。

今、スウェーデンでは、体重の重い子供が増えており、大きい問題となっている。

## 福祉用具の開発の必要性

健康の面で、男性、女性、お金持ち、貧しい人でも、平等に健康であるようにしたい。

スウェーデンのヘルパー協議会の調査によれば、現場で働いている人達は、とても重い物を運んでいることがわかった。私達は福祉用具をもっと現場に取り入れれないといけない。

## 自己決定について

スウェーデンでは、自己決定はとても強い。自己決定とは、本人が自分で決めることである。家族が決めることではない。子供が決めることではない。本人が自分で決めることが大切である。

## 高齢者の社会参加の促進

スウェーデンでは、高齢者の社会参加を進めていくために、高齢者のための目標を設けている。その柱は、経済的なこと、環境のこと、交通のこと、そして住まいの4つである。

また、スウェーデンでは、各自治体は「高齢者委員会」を置かなければいけないと法律で決められている。エスロプ市には、約15の高齢者の組織があり、各組織から1人ずつ高齢者委員会に参加している。

この委員会に來ている高齢者はみな元氣である。昔政治家だった人も参加している。

高齢者は、人口に占める割合が高いので、とても強い集団である。

## 介護スタッフの教育

ケアの現場で働いている人の多くが高校で資格を取り、准看護師として現場で働いている。

つまり、15歳の時に現場で働きたいと決めて、その資格の取れる高校に入る選択をしている。

また、社会人になってからも、2年間の成人教育を受け、ケアスタッフとなることも可能である。教育を受ける間は国のサポートがあり、お金も毎月貰える。大人の人が教育を受けると、とてもいいケアスタッフになる。

エスロブ市では、介護スタッフの約9割は教育を受けて現場で働いているが、スウェーデンの首都、ストックホルムなどでは60%くらいしか、きちんとした教育を受けていない。

## 介護スタッフ募集

スタッフの募集は簡単ではない。現場で働くことは、社会的にはそんなに地位が高くない。それで、私達は2つのグループを特に募集しようとしている。移民

と男の人である。

エスロブ市では、毎年だいたい2000人の移民を受け入れている。移民の人達は、少し時間が経つと、家族を呼ぶこともできる。

今は、イラクからたくさん移民が来ている。その他、ソマリア、チャド、イランからも来ている。

また、男の人でも現場に来ていただきたいと考えている。1人1人を募集するのはなくて、グループを対象とするとい

い。

エスロブ市ではボルボの工場があった。7000人の男達が働いていたが、何年前かに、その工場が閉鎖され韓国に移るようになった。その時に、そこで働いている男達に、今度、80歳のおばあさんと一緒に働きませんかと頼みに行った。

その時、私達は、まず、6カ月の実習と給料を提供し、仕事を続けるのであれば、2年間の教育の後、正社員として働けることを約束し、そして10人が残った。

男の人でも必要であると考えその理由は、どんな仕事場であつても、女性ばかりとか、男性ばかりがいるところはあまりよくないということである。そして、私達の利用者さんには、男性と女性がいるので、利用者にも選ぶ権利があるということである。

## グローバリゼーションと介護

1960年代に、私達は働いてくれる人をたくさん必要としていた。その時に、南ヨーロッパから多くの人達が来た。短期間働いて戻っていった人達もいるが、今までもずっとスウェーデンにいる人達もいる。私は、その人達は私よりずっとスウェーデン人だと思っている。

その人達も、今、高齢者となっている。そして、その人達も認知症になったりする。

皆さんもご存じのように、一番最後に習った言語は、一番始めに忘れてしまう言語である。そのため、私達はその人達の言語がわかるスタッフを用意しないとイケない。

そのような理由で、私は、こんなにたくさんの移民がいるのは、私達の町の財

産だと思っている。

## 健康維持のための予防的なケア

住宅に住んでいる人達に対しては、安全な暮らしができるような環境を提供している。

また、サークル活動などを通して、高齢者が栄養バランスを取れるように教育している。

例えば、1人になった人、寂しい人は、ほとんど食べないか、たまにしか食べないような生活を送っていることも多い。

そのため、町の中に、イートインポイントを作っている。そこで、いろんな人が一緒に集まって食べたり、あるいは一緒にご飯を作ったりしている。

教会がこの活動を手伝っている。そういう活動に参加すると、友人もできる。友人は健康の面で一番大切である。

あまりタバコを吸わないことと、あまりアルコールを飲まないように予防している。

最近問題となっているのは、アルコールの問題で、スウェーデン人の女性も、

結構たくさんアルコールを飲んでいる。

## 高齢者と薬

高齢者の薬の管理も手伝っている。たくさんの方が薬を飲み過ぎていて、ある人は1人の医者だけではなくて、いろんな医者の所に通って、それでたくさん薬をもらって飲んでいて、あるいは、もらった薬を全然飲まない人もいる。

## エスロプ市のケア施設

エスロプ市には、サービスマウスがある。また、ナースングホームもある。利用者、施設と個人契約を結んで部屋を借りる。

認知症の人のためのグループホームも用意している。ナースングホームとグループホームの違いは、グループホームの方がスタッフ数が多いことである。

ショートステイも行っている。日本と同じように、ホームヘルプサービスもある。また、自宅でOTやPTのリハビリテーションを受けることもできる。

## 緩和ケアチーム

私が誇りに思っているのは、エスロプ市にある緩和ケアのチームである。若い人でも、苦しい病気になることもある。自宅で亡くなりたい人のために、このチームを活用している。24時間、患者の所に行き、パーソナルケアを提供する。痛みのコントロールを行い、精神的なサポートをしている。

病院で亡くなるというのは、その人の希望ではないことも多い。自宅の方がいいという人、自宅で亡くなりたい人が増えている。

## ケアの提供主体

エスロプ市では、ケアを提供している民間企業は本当に少ない。エスロプ市では、自治体が全てのケア施設を運営している。ただ、スウェーデンでの一般的な傾向としては民間企業も増えてきている傾向がある。

## 町の便利屋さん

エスロプ市には便利屋さんがある。電

話するとすぐ来てくれる。カーテンを取り替えたり、きれいな電球の取り替えをしたり、窓を掃除してくれる。このサービスは無料で利用できる。

その目的は転倒予防である。このサービスが始まってから、転倒が非常に減った。だから、便利屋さんはとても大切な人である。

### 介護している家族のサポート

多分、日本も一緒だと思うが、自分の夫の世話をしている女性が多い。考えてみると、女性は、もっと若い人と結婚した方がいい。できれば10年下の人。そうすると、夫からサポートを受けることができる(笑い)。

自宅で、自分の夫を世話している人は、同じような条件にいる人達と会って、お互いに話す機会があると精神的に楽になる。

妻が、そういう家族会に出るときに、自治体のスタッフをその自宅に送って、その夫が家にいられるようにして、妻が安心して家族会に出られるようにしている。

る。

デイサービスもやっており、朝送り出して、午後戻って来る。それによって、介護者であるまだ元気な妻は、もっと長く健康的でいられる。

それから、友達サービスもやっている。電話すると、家まで来てくれる人がいて、一緒に話したりする。

### エスロブ市の交通機関

エスロブ市の公共交通機関はバス。そのバスは、ノンステップバスで、簡単に乗降できる。

バスを利用していただくために、エスロブ市では、無料でバスの定期を提供している。1年間の期限があり、毎年、1月1日から1年間使える。スウェーデンは1月1日は休日なので、それを得るために、1月2日に2千人の高齢者が並んだ。



嬉しいことに、昨日のインターネットのニュースで、エスロブ市がスコーネ地方の中で、パブリックトランスポテーション

ヨンの賞をもらったことを知りました。

エスロブ市には、よく日本のお客さんが来ています。ここ10年間、受け入れをしています。

私達は皆さんに来ていただくことを、とても嬉しく思っています。お互いに知識の交換をしたりするのは、とても大切だと思っています。

皆さんが、高齢者のケアの現場、福祉の現場に入ってきてるときに、私達はきちんと説明しなくてはなりません。

そのために、私達はケアのクオリティを上げようとしています。ですから、皆さんに来ていただくと、私達のケアの質も上がります。

今日は私の小さな町の話を聞いて下さってありがとうございます。



寒い時期であるにもかかわらず大勢の方がお出かけ下さり、開場と同時にキャンセル待ちの方々の列ができるほどの盛況ぶりであった。

会場内の通路に椅子席を増設し、参加者全員で熱心に耳を傾けた勉強会であつ

た。

会場の参加者からの質問についても真摯に通訳をして下さり、流暢な日本語でお答えを返して下さった通訳のヨアキムカウト氏に感謝！

スウェーデンと日本では、介護職の社会的処遇に大きな相違があることがわかった勉強会であった。

スウェーデンの介護職はその多くが公務員であり、日本とは大きく異なっている。

高齢化がなお進行する中で、安心して高齢期を過ごすためには、まず、当会が提言している介護職の処遇改善が1日も早く達成されることが必要であることを再認識させられた勉強会であった。

(浅川典子・記)



### エスロブ市 (Eslöv Kummon) 概要

スウェーデンの人口は908万人(2007年)。日本の1.5倍の国土の南に人口が集まる。県の数(自治体)は290

#### エスロブ市

南端のスコネ県に属し、横浜市と同じサイズ。デンマークの首都コペンハーゲンから車で1時間。スウェーデン第3の都市マルメや学園都市の古都ルンドに隣接するベッドタウン

人口 30,087人(2005年)

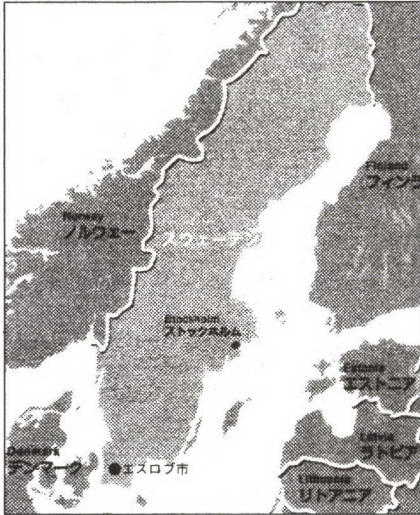
16歳以下 20.4%

16歳~64歳 63%

65歳以上 16.5%

65歳以上に80歳以上が占める率 44%

	2006年	2005年 (65歳以上%)
訪問介護利用者	376人	318人 (6.4%)
特殊住宅(施設)利用者	310人	307人 (6.1%)



### 「腎不全でもあきらめない」

—強く明るく生きる32人の物語—

松村満美子著

ミネルヴァ書房刊 一七〇〇円十税  
自分の腎臓の働きが落ちて10%切ると透析をしなければ生きられません。日本は2万7千人もの人が透析をしています。「腎不全でも諦めない」—強く明るく生きる32人の物語—は、NPO法人腎臓ポータル協会の機関誌、「そのまま通信」に登場してくださった方々のインタビュー記事6年分をリライト、最近の状態を再取材して加筆しまとめたものです。血液透析で頑張っている方、腹膜透析をやっている人、移植した人、保存期の人々、皆「なんで自分だけがこんな病気になるんだ」というどん底の気分を味わった上で、気持を立て直し、前向きに生きておられます。

すでに腎不全になった方はもとより、がんなどの病気を持つ人、健康な人でも、このひたむきな32人の生き様には学ばふことが多く、健康の人から「自分がいかに甘ったれていたか。この本を読んで恥ずかしくなりました。」といったお便りも戴きました。1人でも多くの方がこの本から、生きる力を得て下されば、著者名冥に尽きます。(松村満美子・記)



# IT 機器との付き合い方

きのした 樹下 三行 (大阪学院大学情報学部教授)

1936年大阪市生まれ。大阪大学大学院工学研究科博士課程。工学博士。大阪大学助教授、広島大学教授、大阪大学大学院教授を経て、2000年定年退官。大阪大学名誉教授。現職大阪学院大学情報学部教授。著書「コンピュータ工学」(昭晃堂)など。電子情報通信学会フェロー、IEEE Fellow。

パソコン、携帯電話などのIT機器が普及して、便利になったという反面、使にくいという苦情が多くあります。しかし、使いやすい、使にくいというのは、ある程度は慣れの問題で一種の生活習慣のようなものでしょう。今ではほとんど見ることがなくなった昔の黒電話機を見て、若い人はどう使うのか分からないといえます。ダイヤルを廻すという概念がなくなっているからでしょう。逆に今の携帯電話を見て年寄りはいかに使いにくいといえます、たぶん数字でないボタンがいっぱいあるからでしょう。

新しい機器ができたとき、それが人間とどのように対話するかが問題です。パソコンを筆頭にIT機器といわれているものは、多機能さのゆえに操作点が多くなり、利用者を混乱させています。コンピュータが高価な時代には高機能複雑化に向ったのは当然かもしれませんが、今のようになくなれば、利用者は不要な多機能化を求める必要はありません。さらに注意すべきは、かつて「必要は発明の母」と言われたように、利用者のニーズに合う商品が作られていたのですが、I

T機器の時代になって、必要かどうか問題でなく、こんなことができるよ、こんなこともできるよ、と利用者を刺激するニーズの先行が現在のIT機器の氾濫と混乱を招いています。

IT機器の製造者は、一つの機器が不特定多数の利用者の好みに合うように多機能化して価格を下げています。だからといって個々の利用者がすべての機能を追求する必要はありません。利用者の立場では、携帯電話なり、パソコンを購入するとき、何をしたいかを明確にして導入すべきでしょう。どこからでも便利に電話をかけたいのならその目的で導入すればよく、使いもしない機能に關心を持つ必要はないでしょう、パソコンを使つて年賀状を作りたいと思うのなら、その機能だけを注目して、それでコストが見合えば導入すればよいでしょう。何も2、3年で古びてしまうIT機器に先行投資をする必要はないでしょう。

何をしたいかを決めて、それで値段が引き合うかどうかを考え、その目的で導入して利用する、というのがIT機器と付き合うコツでしょう。

日時／二〇〇八年三月七日(金)

会場／有楽町朝日生命ホール

## 高連協・国際シンポジウム

# シニアと環境問題

— 高齢化問題と環境問題への取り組み —

3月7日、本邦初の高齢者による環境問題国際シンポジウムが東京で開かれました。もしかしたら、世界初の取り組みかもしれません。

主催者は全国約60団体がネットワークする「高齢社会NGO連携協議会」（略称・高連協）。私たち「高齢社会をよくする女性の会」も構成団体の一つで、共同代表を堀田力さん（さわやか福祉財団理事長）と私がつとめています。高連協はそれぞれの団体の活動をすすめる一方、高連協全体として高齢者の雇用促進、高齢者の成年後見制度など権利擁護の普及、国際的な連携はじめ多彩な活動に取り組んできました。

昨年6月から「環境」という柱が高連協の活動に新たに加わりました。アンケ



左から川名紀美さん、樋口恵子、ジェーン・キャッシュさん

ート調査の結果、シニアは全体の中でも環境に関心が高く、現実に浪費をつつしむ生活方法を知っていて実践している、環境のために何か役に立ちたいと願って

いる、ということがわかりました。すでに高連協メンバーの団体の中に、環境に取り組んでいるところが少なくないことも浮かび上がってきました。そこで高連協は「環境問題に取り組みシニアの行動指針—四つの決意と三つの協働—」を宣言、全体の活動目標の柱として取り組むことになったのです。折しも08年7月、洞爺湖サミットを控え、NGO会議の環境部門にも参加しています。

そして今回、サミットを前に、高連協によるシニア環境サミットというべき国際シンポジウムが（朝日新聞社・テレビ朝日福祉文化事業団）の後援、（財）地球産業文化研究所の特別協賛、（社）国土緑化推進機構の協賛を得て開催の運びとなりました。

正午から始まった高連協会員グループの実践報告は、定年後の緑化活動（土に還る木、森づくりの会・御殿場市）、休耕田の活用でしじみ、どじょうの養殖（印旛沼）、菜の花プロジェクト（日本労働者生活協同組合）、衣装のリサイクルファッションショー（高齢者生活協同組



合連合会・いよよ華やぐ倶楽部) などまことに多種多様。今回のような発表の場とネットワークの必要性を感じました。

つづく国際シンポジウムは、スウェーデン、中国、韓国から著名なゲストを迎え、第一部「シニアは環境問題に取り組みよう」では、浅岡美恵さん(気象ネットワーク代表)から、日本政府・産業界の大幅な立ち後れが指摘され、スウェーデンのハーダー・キャッシュュさん(元通商大臣)からは、税金の高いスウェーデンで環境税導入に国民が納得していくプロ

セスが語られました。

第2部は「高齢社会とシニア」で、日本の堀田力共同代表と私、スウェーデン、中国、韓国が社会を支えるシニアの役割について語り合いました。韓国の70代以上、つまり植民地時代の4分の3が無学歴と聞いて、その後遺症の大きさに日本側として凝然とする思いでした。さまざま悪条件にめげず、どの国からもシニアが社会に参加し、社会の形成者の1人として「何かお役に立つことは」と願っていることが伝わってきました。そう願

## お悔やみ

創立以来本会理事を務めてくださった黒田輝政さん(NPO日本ホスピス・ホームケア協会理事長、元朝日新聞記者)から左記のようなお便りをいただきました。

「突然で恐縮ですが、わたくし黒田輝政は、2008年3月6日に臍臓がんのためあの世へ引越しました。葬儀・記念会など、私の意向で営みませんでなにとぞご了承くださいませ。長い歳月にわたって大変お世話になり、衷心より深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。あなた様の平穏と平安をお祈りいたします。

2008年3月 黒田輝政(83歳)

黒田さんは、本会の05年度「朝日社会福祉賞」受賞のきっかけをつくって下さった方です。おかげさまで私たちはほんなに励まされ、活動に弾みがついたことでしょう。黒田さんの長年にわたる本会へのご尽力に心から感謝申し上げます。また人間の生命の尊厳を支えたターミナルについて、NPOを立ち上げ、常に新鮮な実践と提言を続けられたご活動に深く深く敬意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

理事長 樋口 恵子

う人間の尊厳を支える社会を作るために、認知症に取り組むジェーン・キャッシュュさんと堀田力さんは「人間の価値」の尊重という点で完全に一致していました。

私たち高齢者は、この社会に長く生きて豊かな社会の恩恵を受けてきました。その意味で地球温暖化という危機を見逃してはいけない責任があります。次の世代に持続可能な地球を引き継ぐために、いろいろな工夫や耐える力も持っています。食い逃げしないのはあえて言えば高齢者の品格です。

私たち「高齢社会をよくする女性の会」は高連協の役員メンバーとして今回の環境シンポジウムでも、表裏ともども存在感をアピールしました。一団体としての会場参加者もトップクラスだったと思いますし、何より受付の大部分は当会で整然と担当しました。今後とも環境問題に関心を持つ本会会員のご参加をお願いしたいと存じます。ご協力ありがとうございました。

(樋口恵子・記)

「日本人の顔のつくりかた」

かづきれいこ著

PHP研究所刊 一二〇〇円十税  
 本日のメイクとは、素顔の自分をもとももっているよき、自分らしさを最大限に引き出すもの。そうして自分自身が納得できる元気な顔をつくり、自信がもてれば、鏡の中の自分の顔から、前向きに生きていくエネルギーをもらうことができるのです。

多くの人が陥りがちな「きれい」に対する認識を解きたい。そして、日本人ならではの美しさや個性に誇りを持つてほしい。流行に左右されず、素顔の自分を好きになれば、外観のコンプレックスで落ち込むこともなくなり、毎日が素晴らしいものになるはず。

そんな想いから、私はこの本を書きました。

「きれい」を考えるときには哲学が必要で、哲学といっても難しいことではなく、「自分が納得できる美しさとは何か」と考えることが大切なのです。

皆さんにとってこの本が、「本当のきれいって何だろう、自分らしさって何だろう」と考えるきっかけになることを願っています。(まえがきより)

(かづきれいこ・記)

「女ひとり定年後を生きる」

市川泰子著

インパクト出版会刊 一七〇〇円十税  
 私が小田原市役所を退職して16年が過ぎようとしている。その間91歳の母を看取り、1人住いになったのを機に家を建て直し女性が安心して集い学べる場とした。「ひろこ・いちかわカルチャーサロン」がそれで今年15周年を迎えた。またサロンは「高齢社会をよくする女性の会あしがら」の集いの場にもなっている。書くことが好きな私は、新聞や同人誌の依頼に応じ、退職後に起きたこと、感じたことなどを書いた。それをまとめて出版した。

組織から離れ、認知症の母を抱え、収入も減少する前途を思うと恐れおののいたが、幸い、在職中の仕事(生きること)に対する熱意から得た知識、経験などがそれまで私を支えてきてくれた良い人間関係によつて生かされ、希望をもつて生活出来るようになった。

これから定年退職を迎える女性達に一つの生き方として参考にして頂ければうれしいと思っている。(市川泰子・記)

事務局だより

年度半ばから経費節減のために「メール便」による会報送付を行なってまいりましたが、不都合等はございませんでした。郵便と違いご転居先に転送してくれないので、ご住所変更の折りはお早めにご一報くださいませ。

今年度は会の歴史に残る活動が行なわれ、会員の皆様には多大のご支援をいただきました。朝日社会福祉賞受賞記念国際シンポ、4千人会場での全国大会・静岡、「3万円法」実現のための署名活動・大集会と、各活動を通じて多くのボランティアの皆様にご協力いただき、運営委員会一同心からお礼を申し上げます。

新年度は、総会を5月24日(土)午後、女性と仕事の未来館ホール、全国大会は9月20日(土)〜21日(日)青森県弘前市で開催予定。環境問題活動としては7月の洞爺湖サミット、9月のモントリオール会議に参加するなど、企画案目白押しです。活動を通じて会員増をはかって参りましょう。(新井倭久子)